

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 11 月 9 日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (11/9 11:00 時点)

| 号機 | 注水状況 | | 原子炉圧力容器 下部温度 | 原子炉格納容器 圧力* | 原子炉格納容器 水素濃度 | |
|-----|-----------|---------------------------------|-----------------|----------------|-----------------|-------|
| 1号機 | 淡水 注入中 | 炉心スプレィ系：約 2.0 m ³ /h | 30.3 | 106.5 kPa abs | A系： 1.13 | vol % |
| | | 給水系：約 3.0 m ³ /h | | | B系： 1.13 | vol % |
| 2号機 | 淡水 注入中 | 炉心スプレィ系：約 4.5 m ³ /h | 42.6 | 5.82 kPa g | A系： 0.07 | vol % |
| | | 給水系：約 2.0 m ³ /h | | | B系： 0.05 | vol % |
| 3号機 | 淡水 注入中 | 炉心スプレィ系：約 4.5 m ³ /h | 42.5 | 0.22 kPa g | A系： 0.20 | vol % |
| | | 給水系：約 2.0 m ³ /h | | | B系： 0.18 | vol % |

*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1号機】・11/8 22:42 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.9m³/hから約 3.0m³/h、炉心スプレィ系からの注水量を約 1.8m³/hから約 2.0m³/hに調整。

【2号機】・11/8 22:42 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.8m³/hから約 2.0m³/h、炉心スプレィ系からの注水量を約 4.3m³/hから約 4.5m³/hに調整。

【3号機】・11/8 22:42 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.8m³/hから約 2.0m³/h、炉心スプレィ系からの注水量を約 4.3m³/hから約 4.5m³/hに調整。

<2. 使用済燃料プールの状況> (11/9 11:00 時点)

| 号機 | 冷却方法 | 冷却状況 | 使用済燃料プール水温度 |
|-----|----------|------|-------------|
| 1号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 20.5 |
| 2号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 20.0 |
| 3号機 | 循環冷却システム | 停止中 | 17.3 |
| 4号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 30 |

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

※ 冷却システム停止中のため、至近のデータ(11/6 5:00 現在)を記載。

【3号機】・11/6 9:53 使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、燃料プール内瓦礫撤去の事前調査として、当該冷却系停止時の燃料プール内視認性(透明度)変化を確認するため、同システムを停止(停止時プール水温度:17.5℃)。なお、停止期間は11月10日までを予定しており、プール水温度の上昇率は約 0.17℃/hと評価していることから、運転上の制限値 65℃に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題はない。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

| 号機 | 排出元 → | 移送先 | 移送状況 |
|-----|---------------|----------------------|--------------------|
| 3号機 | 3号機 タービン建屋 | → 集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋) | 11/8 12:31 ~ 移送実施中 |

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (11/9 7:00 時点)

| 設備 | セシウム 吸着装置 | 第二セシウム 吸着装置 (サリー) | 除染装置 | 淡水化装置 (逆浸透膜) | 淡水化装置 (蒸発濃縮) |
|------|--------------|-------------------------|------|------------------|------------------|
| 運転状況 | 停止中 | 運転中* | 停止中 | 水バランスをみて 断続運転 | 水バランスをみて 断続運転 |

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- H24/10/23～ 1号機サプレッションチェンバ内への窒素ガス連続封入を開始。サプレッションチェンバ内の水素濃度を推定2%程度まで低くするために、連続封入期間は1ヶ月程度を予定。

以 上